



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 9月

令和4年9月1日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

日本式教育その2 ～特別活動～

校長 津田 利枝

感染拡大第7波に加え、記録的な猛暑と各地での大雨……。厳しい夏でしたが、かけがえのない、楽しい思い出もたくさんできたことと思います。学校には日に焼けた元気いっぴいの顔が戻ってきました。

夏休みに入ってすぐに4年生の下田臨海学園がありました。3年ぶりの実施ということで私たち教職員も例年以上に緊張感をもって臨みました。



「始めて踊り子号に乗りました!」「初めて海に入りました!」「初めて花火をやりました!」という子供たちの満面の笑顔と歓声が鮮明に思い出されます。その子どもたちに「もっと楽しませてあげよう!」「いい思い出にしてあげたい!」と、全力かつ無心で3日間の引率をした教員たちの姿にも印象深いものがあり、あらためて、宿泊行事の意義、価値を実感しました。

その前の週に下田に行った6年生も、清里に行った5年生も夜にレクリエーションを行いました。レク係が「みんなが楽しめること」を事前に考え準備し、「みんなで楽しむ」をコンセプトに行います。踊ることが好きな子どもたちは、昭和のフォークダンスも令和のヒットソングも楽しく軽快に踊ります。班対抗のゲームにも全員が全力で取り組みます。こうした活動の土台となっているのが、日常の学級活動や学校行事の取組です。主体性、協調性、社会性などの力を



育むことを目標とする特別活動の実践を本校で重視していることはこれまでもお伝えしている通りですが、こうした教育活動は日本式教育の代表例でもあります。7月の各教室では、学級会で話し合った「夏祭り」を実践している学級がたくさんありました。来校された方は、子どもたちの実践力に驚かれています。PTA主催のキッズフェスティバルでも、キッズリーダーたちが主体的に活動に加わらせていただきました。今学期も、子どもたちが主体性を発揮し、意欲と自信を育むよう、指導に励みます。

実りが実感できる2学期、どうぞご期待ください。